

令和7年度

中南の

社会教育

こども・担当者のために
中南教育事務所
県民・地域の応援隊

スキルアップ

こども・若者の社会参画のために！

若者の社会参画促進事業

青森県教育委員会では、不登校が続いている高校生や高校を中途退学するなどしてひきこもり・ニート等と呼ばれる状況にある若者に対して、各地区のこども・若者支援団体で形成されているネットワークを活用しながら自然体験・交流塾を実施することにより社会参画を促すことを目的に標記事業を行っています。本年度は2会場それぞれ3回自然体験・交流塾を行います。

1 会場及び日程

◎県立梵珠少年自然の家

(五所川原市大字神山字珠の峰 117-602)

第1回 令和7年7月 5日(土)

第2回 令和7年9月 6日(土)

第3回 令和8年1月24日(土)

◎県立種差少年自然の家

(八戸市鯉町字膳並平 2-26)

第1回 令和7年7月19日(土)

第2回 令和7年9月20日(土)

第3回 令和8年2月14日(土)

※時間はすべて9:00~15:00



Index

■ スキルアップ

- ◎若者の社会参画促進事業
(梵珠少年自然の家)1
- ◎青森で生きる未来人財育成事業
(弘前市運動公園)2
- ◎「キャリアサポ」ワークショップ
(藤崎町立藤崎中学校)2

■ ネットワーク

- ◎ねぶた合同運行(田舎館村)3
- ◎防災体験学習(黒石市)3
- ◎中学生×医師交流プログラム
(弘前市)3
- ◎医療福祉体験(弘前市)4
- ◎二十歳の集い(大鰐町)4
- ◎「ながしこ」合同運行
(藤崎町)4

2 参加対象

不登校が続いている高校生や、ひきこもり・ニート等の課題を抱える状況にありながらも社会とのつながりやきっかけを求めている若者(16歳~概ね40歳)各回ごとに10名程度

3 参加費用

一回につき1,000円程度(食費、傷害保険料、活動費)

7月5日(土)県立梵珠少年自然の家で行われた第1回自然体験・交流塾の様子を紹介します。参加者は10名、ボランティアスタッフが11名参加しました。運営は県生涯学習課及び自然の家研修課長が担当しました。アイスブレイクとして「後出しジャンケン」や「竹筒玉運びリレー」等を楽しみました。創作活動として「ぶんぶんごま」づくりを行いました。自分の作ったコマが上手に回ると大きな歓声が上がっていました。昼食はカレー作りを各班ごとに行いました。野外で食べるカレーは格別に美味しそうでした。最後に振り返りを行い終了となりました。参加者からは「来るまでは不安でいっぱいだったけど、みんな良い人ばかりで良かった。」との声が聞かれ、充実した時間となりました。



高校生を地域活動へ

青森で生きる未来人財育成事業（高校生地域活動促進事業）

（株）ブランドュー弘前 代表取締役 西澤 雄貴 氏

青森県教育委員会では、青少年の自己肯定感や主体性を高めることを目的として、高校生を県内各地で行われる地域活動に派遣する標記事業に取り組んでいます。県内の高校生を対象に「ボランティア名簿の作成」「オンライン講座の実施」「対面講座の実施」の事業に取り組んでいます。

7月19日（土）弘前市運動公園陸上競技場にて「スポーツボランティア」をテーマとし（株）ブランドュー弘前代表取締役である西澤雄貴氏による対面講座が開催されました。「なぜブランドュー弘前 FC が Jリーグを目指すのか」について、スポーツビジネス、地域活性化、スポーツとの多様な関わり方等の観点から説明がありました。特にボランティアとしてスポーツと関わることの意義について詳しく説明があり、講義後は、20日（日）の試合に向け実際にボランティア活動を行いました。男子はテント張り、物品運搬等を行い、女子は翌日の試合で配る物品の袋詰めを行いました。最後にまとめとして、西澤氏から未来を担う高校生に期待の言葉が贈られました。講師である西澤氏のサッカー愛、地元愛に溢れた熱いお話であり、高校生はしっかりとその話に聞き入っていました。ボランティア終了後は、翌日の試合を観戦するという高校生がおり、自分達の活動が実際の試合に、どのように生かされているのかを実感することが期待されます。



大学生とカタリ、自分を見つめ！！

青森と自分の未来を“カタル”！『キャリサポ』事業に係る中学校対象ワークショップ

9月4日（木）藤崎町立藤崎中学校3年生を対象とし「青森と自分の未来を“カタル”！『キャリサポ』事業に係る中学校対象ワークショップ」が行われました。今回の全体テーマは「ふるさと」です。アイスブレイクの後カタリが2回行われました。1つ目のテーマは「自分の努力を認めてあげる」もう1つのテーマは「誰かに頼っていい」でした。大学生が、中学校時代、受験期等に悩み苦しみ、気付いたことに生徒達は真剣に、そして、共感的に耳を傾けていました。



その後はグループになって、カタリの感想を共有しながら生徒達は自分のことをカタリます。大学生のリードの下、自分で気付かなかった自分の良さ、友達の良さ、そして、自分を支えてくれる「ふるさと」の良さに気付いていきました。これから受験期を迎える3年生にとって、自分の人生を見つめ、今後の進路決定に向けて一步一步進んでいくための力となったと思います。



事業訪問

中南教育事務所では各市町村の事業取材し、情報の共有及びネットワークづくりを支援しています。

ネットワーク

ねぶた合同運行 (田舎館村) 8月4日



オープニングセレモニーとして、役場会場で田舎館村消防団纏隊による纏振りが披露されました。会場には、商工会青年部、婦人部の出店があり華やいだ雰囲気を盛り上げていました。開始を知らせる花火を合図に11台のねぶたが出陣しました。コースは田舎館中学校から八反田、畑中交差点を左折し役場がゴールとなります。スタートである田舎館中

学校ではすべてのねぶたがそろい、その姿は壮観なものでした。

ここが魅力

大型のねぶたを、沿道近距離で見られるため、ねぶたの迫力を存分に感じることが出来ます。町会として子ども会を支援している姿勢、意気込みが感じられました。「令和ねぶた一皆一」では、まわし姿のちびっ子力士のかわいらしい姿が印象的でした。



上十川公民館 防災体験学習 (黒石市) 8月6日



防災組織運営及び黒石市こども宿泊体験学習会が上十川公民館を会場に行われ、23名のこどもが参加しました。開会行事の後、非常用菜園のジャガイモ収穫体験を行いました。こどもたちは、割り当てられた区画のジャガイモを楽しそうに収穫していきましました。次に、ホールで黒石よさレ参加に備えた流し踊りの練習を

行いました。防災炊き出し訓練の昼食は、収穫したジャガイモと非常食のレトルトカレーをみんなで食べました。午後は、防災熱中症対策プール遊びです。暑い日だったのでこどもたちは大喜びでした。

ここが魅力

公民館に「上十川りんごクラブ」が隣接しており、りんごクラブと連携し、支援員さんと一緒に指導に当たっていました。テーマは防災であり、昼食は非常食体験でした。また、午後のプールは、非常災害時の貯水槽であり、有事の際には水を溜めておくことでトイレ用水に利用できるとのことでした。



中学生×医師交流プログラム(弘前市) 8月6日



弘前大学医学部を会場に18名の中学生が参加しました。午前は、医学生との意見交換・質問シミュレーター等を使用した実習体験、その後に検査部と放射線部を2班に分けて現場視察を行いました。午後は医師との意見交流が行われました。交流を担当した医師は、病理診断科の黒瀬頭教授と救急医の杉山佳奈助教でした。杉山助教は、子育てしながら現在の職を続けており、会場に3名のお子さんが参加していました。

ここが魅力

意見交流が活発に行われ、「医師を目指したときと、今、医師として感じている事の違いは?」「患者さんと接するときに気を付けていることは?」等の質問が出されました。二人の先生からは、医者という立場を超えて人としてどのように対応するべきかという視点での回答が多く、参加者のキャリア発達に貢献する内容でした。



「来て・見て・学ぼう！医療福祉体験」（弘前市）8月7日



弘前医療福祉大学を会場に20名（男子8名、女子12名）の参加者で行われました。パーシェントジャーニーと称して、災害被害にあいケガを負った人が救出され、治療を受けリハビリを通して生活を取り戻していくことをテーマに体験が行われました。各科、専攻により「がれき救助」「心音と肺音を聞く・点滴操作」「片麻痺のリハビリ」「嚥下ス



クリーニング」「粘度の違うおかゆ体験」「歯周病の口腔ケア」の体験を行った後、学生との懇談を行いました。

ここが魅力

運営は大学職員であるものの、それぞれの現役学生が講師となって説明することで、参加者は医療をより身近に感じることができていました。また、学生にとっても、キャリアアップにつながっており、双方にとってwin-winなものとなっていました。

「二十歳の集い」（大鰐町）8月9日



大鰐町中央公民館を会場に26名が参加して行われました。会場では、保健福祉課が出張健康鑑定団を行い、健康に対する意識を高めていました。また、大鰐町と包括連携協定を結んでいる第一生命は「生まれた日の新聞プレゼント」の企画を行い、会場を盛り上げていました。代表の吹田風香さんは「二十歳とし



て、より大きな責任を負うことになるので、今まで以上に周囲との協力をとりながら、正しい判断ができるようになっていきたい。」と決意の言葉を述べていました。

ここが魅力

級友・恩師と語る会では、全員が輪になり中学校時代のことを振り返っていました。学年主任からは「コロナで修学旅行に行けなかったこと」学級担任からは「自分にとって最後に学級担任したクラス」等の言葉があり、思い出に浸る感慨深い時間となりました。思わず、涙ぐむ参加者もあり、とても温かく和やかな時間となっていました。

藤崎夏まつり「ながしこ合同運行」（藤崎町）8月10日



藤崎町ふれあいずーむ館前をメイン会場として、町内を運行しました。開会宣言の後、ながしこ盛り上げ隊による踊り、4つの保育所、幼稚園によるお遊戯と続きました。山車は「木挽町」「久井名館」「藤崎をロックに奮わす会」「町役場ながしこ実行委員会」の4団体が出場しました。最後は「新・藤崎音頭」を輪になって踊り閉会となりました。沿道にはたくさんの観客がおり、ながしこを楽しんでいました。各出場団体に町長始め様々な来賓から感想発表があり、参加者にねぎらいの声をかけていました。



がしこを楽しんでいました。各出場団体に町長始め様々な来賓から感想発表があり、参加者にねぎらいの声をかけていました。

ここが魅力

保育所・幼稚園のこども達の熱心な踊りに観客は大いに盛り上がっていました。また、伝統的な踊りである「菊様の舞・松助の踊り」や「新・藤崎音頭」を披露する絶好の機会となっていました。「ながしこ」はじめ、藤崎町の伝統を絶やさぬという強い意志を感じることができました。